

平成30年度学校教育自己診断 まとめ

- ・昨年度から質問項目が新しくなったので、2年間の推移をグラフ化した。
- ・生徒のアンケートについては、学年別の結果をあわせて載せている。
- ・資料中の数値は、小数点以下を四捨五入して記載してある。
- ・質問内容が従来のものと同じものは過去のデータも参考にできるよう、表を添付する。

生徒

○分析

すべてのアンケート項目で昨年を下回る結果となった。特に、「学校へ行くのは楽しい」（設問1）および「先生の指導は納得できる」（設問4）に対する肯定感は、過去6年を振り返った中で最低の数値となった。これは学校の根幹をなす「行事は楽しい」（設問15）や「授業がわかりやすい」（設問18）などの低下からも当然の結果であると言える。

生徒と教員の対話をイメージした「学校は自分が努力したことを認めてくれる」（設問5）や「先生は生徒の話を良く聞いてくれる」（設問6）、「生徒の意見を聞き、悩みや相談に親身になって応じてくれる」（設問9）などでは、学年が上へ行くごとに肯定感は強くなっている。昨年度においては、設問5は横ばい、設問6、9は同様の傾向があることから、ともに過ごす時間をじっくりとかけながら、お互いに理解しあうことができていることが伺える。

○課題

「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」「落ち着いて安心して授業を受けられる学校」が根幹にある。これらを基盤にしつつ、毎日の多くの時間を過ごす「授業」において改善を行っていくことが、魅力のある学校づくりにつながる。

生徒一人ひとりとの関係性を築くことに重点をおく必要性が感じられる。対話による指導を心がけ、たくさん「褒めて」きちんと「叱る」。生徒たちと過ごす時間を増やしていくことが、生徒、教員のどちらも相手の考え方を理解できる方法のひとつである。

生徒指導に関しては、常に「これで良かったのか」「もっといい方法は無かったか」と吟味・改善していく必要がある。一方で、その場では理解できなくても、生徒個人や学校全体にとって必要な指導があるケースもある。保護者への連絡、報告をきちんと行い、保護者の理解、協力を仰ぎながら、推し進めていく。ねばり強く全教員が協力して、何が良くて何が良くないことを理解させる必要がある。

ホームルーム活動については、生徒会行事に積極的な様子が伺えたが、肯定感のある生徒数の減少、否定感のある生徒数の増加となっている。各クラスで生徒主体の活動を意識し、様々な生徒を巻き込んで取り組む必要がある。

保護者

○分析

「学校は、将来の進路や職業などについての情報を知らせてくれる」（設問10）を除き、すべてのアンケート項目で昨年を下回る結果となった。これは生徒のアンケートデータとも一致している。生徒たちが家庭に帰り、学校での出来事や感じたことなどを家庭で話ができているとも取れるが、この状況では、保護者からの理解や協力は得がたい。

○課題

家庭内で学校に関するコミュニケーションがとられていることがうかがえる。楽しかったことや嬉しかったことなどよりも、面白くなかったことや不満、文句のほうが出やすい。学校の情報が生徒から保護者へという流れをメインとする一方で、担任から保護者へ連絡や報告をきちんと行うこと（特に、生活指導に関わる案件に関しては、まずは連絡を入れることを徹底し、こまめな報告を行う）や、進路、PTA活動に十分な情報提供の機会を設ける。ただし、第一に生徒への適切な課題認識の上に対策をとることが重要であることを忘れてはならない。

教職員

○分析

「各年度の教育計画について認識している」（設問1）では全員が肯定的な回答をしている。その一方で、チーム学校を意識した「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」（設問2）、「学級経営の事案を事案により、担任団、学年団、学校全体で共有し、解決に取り組んでいる」（設問3）、「生徒の学力向上のため、学校全体で取り組みを行っている」（設問5）などは肯定的な回答は大きく減少し、中でも「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」は－29%という危機感が募る下げ幅である。

○課題

各自の仕事に対する姿勢に関する質問には肯定的な回答をしている教員が多い中、チームとして機能していないと感じる教員が多数いる。かわち野高校が目指すものは何なのか、何が必要でそれを獲得するために必要なことは何なのかということを、今一度、教員間で議論し、目標設定する必要がある。全員がその目標に向かって学校目標を達成するため、各部、各学年の取り組みを管理職、部長、主任が有機的につなげ、全体を見渡すことのできる、何でも言い合える風通しの良い教員集団の形成を目指さねばならない。

生徒や保護者のアンケート結果を全教職員が真摯に受け止め、生徒、保護者の願いや想いに応えていかなくてはならない。